

群馬県立文書館

文書館だより

TEL 027 (221) 2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

第50号

平成25年3月



表紙写真

「前橋城絵図」

縦二〇四cm×横一九八cm

(元禄年間以降、P九九〇―二一)

本館には多くの城郭絵図が所蔵されていますが、今回の開館三十周年記念特別展（展示室）では、前橋城・高崎城・沼田城の絵図を展示しました。中でも注目は、二日間の実物展示会（研修室）でも展示した初公開の「前橋城絵図」です。

この絵図には、櫓・城門・堀（長さ）・橋や藩士の屋敷割り（藩士名・坪数）、利根川・広瀬川・風呂川などが詳細に描かれています。また、一面に彩色が施され、緑色の土塁上に白壁の堀が描かれた姿は、「関東の華」と呼ばれるのにふさわしい城であったことがわかります。

絵図の作成年代は記載がなく不明ですが、①藩主酒井氏の菩提寺である龍海院に所蔵されていたこと、②龍海院が元禄年間に城北側の岩神から城南側の現在地に移転したとされること、③城の縄張り・形状（本丸北側の高浜曲輪が利根川によって削られていないこと）、④利根川の流路、などから酒井氏藩政時代（元禄年間以降）の作成と考えられます。

通常は、本館二階閲覧室で、利用券作成の上、マイクロフィルム撮影の画像を御覧いただけます。ぜひ御来館ください。

周年記念事業

文書館三十年を振り返って

群馬県立文書館長 岡田 昭二

群馬県立文書館は、県の公文書や地域の古文書等を保存利用することを目的として昭和五十七年（一九八二）に設立されて以来、平成二十四年で創立三十年という節目の年を迎えました。

そこで、これまでの歩みを振り返ってみますと、まず昭和六十三年（一九八八）の「公文書館法」施行に伴い、翌年文書館設置条例の一部を改正しました。続く平成五年（一九九三）には県史編さん事業の終了によって県史収集資料を引き継ぎ、同七年（一九九五）には県庁舎の新築に伴って文書館収蔵庫の増築工事も行われ、全国有数の収蔵能力を誇る施設となりました。また同九年（一九九七）には県内市町村公文書等の保存活用を目的に「群文協」が設立され、その活動は今年度で十五年目を迎えています。

一方、当館の普及活動についてみますと、開館以来毎年開催している古文書講座（入門・長期）や展示会（常設展・企画展）のほかに、「文書館ホームページ」の開設（平成十二年）、古文書学習用テキスト『ぐんまの古文書』（平成十一年）、学校教材『授業で使えるぐんま

の資料』（平成十六年）の発行など、県民の生涯学習への支援や小中学校との連携にも努めてまいりました。なかでも、古文書講座は今なお県民の皆様の関心が高く、修了者は今年度で延べ三七七〇人に達するほどの盛況ぶりです。

また近年では、平成二十二年（二〇一〇）に明治から昭和戦前期の「群馬県行政文書」約一万八千点が国の重要文化財指定を受け、一昨年は東日本大震災に対する県の行政支援活動の一つとして、被災自治体の実態調査や宮城県女川町の被災公文書の応急手当をお手伝いし、住民生活の基礎資料となる公文書を保存管理することの大切さを広く伝えました。

さらに平成二十三年四月には「公文書管理法」が施行されたことにより、地方自治体の公文書を取り巻く環境も今後大きく変化しようとしています。このようなかで、当文書館は「歴史資料の宝庫」としてその存在意義がますます高まってくるものと思われまます。県民の皆様には文書館の良き理解者（サポーター）として、引き続き温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

文書館三十年のあゆみ

（主に平成15年度～24年度）

- 昭和57（一九八二）・11・1 県立文書館開館
- 平成7（一九九五）・9・27 文書館書庫増築工事竣工
- 16・2・12 「群馬ニュース」映画フィルムのテレシネ化業務発注
- 16・3・31 学校教材「授業で使えるぐんまの資料」作成
- 16・12・1 普及版「授業で使えるぐんまの資料」刊行
- 17・3・3 文書館燻蒸設備改造
- 17・3 明治期村絵図等マイクロ複製化終了
- 17・6・25 古文書入門講座において講座修了者（入門・長期）が延三、〇〇〇人目を達成
- 18・12 収蔵絵図資料デジタル化開始
- 19・3・27 「群馬県行政文書」一七、六二九点が県指定重要文化財登録
- 20・4・22～26 韓国国家記録院Nara記録館（ソナム市）開館記念式典出席
- 20・5・30 マイクロ保管庫空調機更新
- 20・11・25 文書館ボランティアを配置
- 20・12・3 国文学研究資料館所蔵「群馬県庁文書」のマイクロ収集開始
- 21・2・2 緊急雇用対策臨時職員を配置
- 22・2・8 廊下スロープ改修工事完成
- 21・2・16 県産材檜製閲覧室資料棚を設置
- 21・3・24 「元禄上野国絵図」が県指定重要文

文書館開館30

開館三十周年記念事業の開催

―三十周年記念式典・

講演会・シンポジウム―

平成二十四年十一月二日(金)、当館
研修室において、開館三十周年記念式
典・講演会・シンポジウムを開催しまし
た。当日は一一七名の参加者があり、盛
会の内に終了しました。

●記念式典

・主催者挨拶

「歴史的資料の保存・活用の拠点として」

県教育委員会教育長 吉野 勉

・来賓祝辞

「創立三十周年を迎えた群馬県立文書館
への期待」

国立公文書館館長 高山 正也氏

「開館三十周年を祝して」

みやま文庫副会長 松島 榮治氏

「資料の活用を願って」

古文書同好会会長 山口 朗氏

●記念講演会

「アーカイブズの軌跡と未来像」

国文学研究資料館名誉教授

丑木 幸男氏

●アーカイブズ・シンポジウム

・共通テーマ

「地域史料と公文書の保存・管理の今ま

で、そしてこれから―地域社会における

アーカイブズの役割―

・基調報告①

「公文書を『地域の史料』とするために

―「アーカイブズ」の役割と目的―

戸田市アーカイブズ・センター専門員

佐藤 勝巳氏

・基調報告②

「地域史料の保存と活用への期待」

東京大学史料編纂所教授

佐藤 孝之氏

・基調報告③

「地域社会におけるアーカイブズの役割」

日本経済新聞社文化部編集委員

松岡 資明氏

・パネルディスカッション

―戦後から公文書管理法の成立まで―

―公文書館法から公文書管理法まで―

―アーカイブズの未来像―

―参加者との意見交換―



※当日の詳しい内容については、
『双文』第30号をご覧ください。

化財登録

21・12・21 国文化審議会委員(文化財分科会)

が視察のため来館

22・3・15 閲覧室の受付窓口等を改修(県産材

活用推進事業)

22・3・19 文化審議会が、「群馬県行政文書」

を国重要文化財に指定するよう文部

科学大臣に答申

22・4・16 県教育委員による視察・施設見学

22・6・5 サーティーポイント・カード交付開始

22・6・29 「群馬県行政文書」一七、八五八点

が国重要文化財登録

23・3・11 東北地方太平洋沖地震が発生、外壁

に亀裂などの被害(東日本大震災)

23・6・9 東日本大震災による公文書被災実態

調査実施(岩手県陸前高田市ほか四

市町村、宮城県南三陸町・女川町ほ

か二市町村、計九自治体)

宮城県女川町の被災公文書の救済作

業実施

23・7・1 閲覧室のマイクローダー更新

23・10・27～28 全史料協全国(群馬)大会開催

(会場・高崎市立中央図書館ほか)

24・10・27～25・1・30 開館三十周年記念特

別展「絵図でたどるふるさと群馬―

城・関所・村の風景―」開催

24・11・1 システム更新

24・11・2 開館三十周年記念式典・講演会・シ

ンポジウム開催

24・11・22、24 実物展示会開催

開館三十周年記念特別展 絵図でたどるふるさと群馬

一城・関所・村の風景

平成二十四年十月二十七日(土)から平成二十五年一月三十日(水)まで、開館三十周年記念特別展を当館展示室・研修室などで開催しました。

今回は、上野国・群馬県の特徴を表す六テーマを設定し、当館所蔵の絵図資料の中から、視覚に訴える彩色の絵図三十点とその絵図に関係する史料や地図、各絵図の現況写真などを展示しました。



城郭絵図については、前橋城、高崎城、沼田城の絵図を展示しました。「上野国沼田倉内城絵図」は、真田氏改易後の天和二年(一六八二)五月に描かれたものです。本町の札ノ辻、アラマチの馬出から中門、三ノ門を通り、冠木門から枡

形・二ノ丸に入り、本丸の大門・三階櫓に至る道筋などが描かれています。

街道・関所絵図については、大戸と西牧の関所絵図と「五料村往還通絵図面」を展示しました。二点の関所絵図からは、それぞれ信濃国に通じる信州街道と下仁田道の要所に、地形を巧みに利用して設置されたことなどがわかります。

温泉絵図については、草津温泉と伊香保温泉の絵図を展示しました。「上州草津温泉之畧図」には、湯畑を中心に現存する複数の共同湯、温泉宮・光泉寺・白根神社、白根山・万座山・天狗山・浅間山などが色鮮やかに描かれています。

天明浅間焼け被害絵図では、吾妻川中流域の岩井村・植栗村(現東吾妻町)の絵図を展示しました。河岸段丘の発達したこの地域において、下の段の田畑が泥流に覆われたことがわかります。

境界訴訟絵図については、「中木村出入裁許絵図」と「(信濃国・上野国両国境論之事)」を展示しました。前者は、安中領中木村と幕府領西牧村の境界とした堀切の場所、妙義山、碓氷川、西牧間所などが色彩豊かに描かれています。

壬申地券地引絵図について、本館は、ほぼ全県にわたる一〇九二鋪(国重文)を収蔵していますが、今回はそのうちの十三点を展示・紹介しました。展示期間中一〇二〇人の方に御覧いた

だきました。見学者からは、「群馬の歴史が分かり勉強になった」などの感想が寄せられ、好評のうちに終了しました。

開館三十周年記念特別展 実物展示会

絵図でたどるふるさと群馬 一城・関所・村の風景

平成二十四年十一月二十二日(木)二十四日(土)の二日間、当館三階の研修室において実物展示会を開催しました。

当館での絵図の実物展示は、昭和六十二年に行った企画展「甦る地籍圖」、昭和六十三年一月二十六日、浩宮様(現皇太子徳仁親王)が当館をご視察された際の特別展示「元禄の上野国絵図」、その後、平成三年十月企画展「上野国の国絵図展」開催中に展示した「元禄上野国絵図」と「天保上野国絵図控図」などがあります。今回は実に二十一年振りの実物展示となりました。当館三十周年の節目に、膨大な絵図史料の中から、特に視覚的に分かりやすいものを選びました。酒井氏時代に近世の城郭として拡張・整備されたといわれている「前橋城絵図(龍海院寄託)」や明治時代初期に「地券」(土地所有権証明書)発行に際して作成された碓氷郡坂本宿や吾妻郡鎌原村等の「壬申地券地引絵図」など、九鋪の史料を展示しました。



絵図史料は大変貴重なものであるとともに、国重文指定のものや市指定のものもあり、管理の面でもポールを立て鎖やビニールテープで観覧者の見学位置を示すなど、注意を喚起しました。

延べ一五二人の方にご覧いただきました。また、観覧者の方からは、「実物に接する機会を設けていただきありがとうございます。素晴らしい企画でした。前橋城の絵図の色が鮮やかで書き込みも細かくて驚きました。また、碓氷峠のおこし立て図は斬新でした。親切なる説明に江戸時代の様子がよく分かったような気がいたしました。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。

新たに収蔵した 行政文書

管理受任等 平成二十三年度に管理委任、引継、管理委託により県の各機関から受け入れた文書は、一、一二〇冊でした。（詳細は表1のとおり）

表1
平成二十三年度管理受任文書の課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
学事法制課	86	障害政策課	98	道路管理課	30
税務課	51	業務課	34	知事部局合計	728
市町村課	3	国保援護課	56	管理課	163
消防保安課	40	環境保全課	12	学校人事課	3
文化振興課	29	林政課	38	文化財保護課	7
健康福祉課	15	森林保全課	11	教育委員会合計	173
医務課	74	畜産課	13	地方公務員災害基金 補償支那	219
介護高齢課	2	農村整備課	63	総計	1,120
保健予防課	6	計量検定所	67		

収集 平成二十三年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から文書館が歴史資料として収集したものは一、五八八冊でした。（詳細は表2のとおり。なお、管理委任解除とは、保存期間が満了し、管理委任を解除された文書から収集したものを）

表2
平成二十三年度収集文書部局別冊

部局名	冊数
総務部	90
企画部	84
生活文化部	61
健康福祉部	88
環境森林部	63
農政部	73
産業経済部	107
県土整備部	356
西部民局	7
議会事務局	9
教委事務局	143
(管理委任解除)	507
合計	1,588

古 文 書

新たに収蔵された

〔寄贈・寄託された古文書〕

- ◎邑楽郡大泉町・明治九年古氷村切絵図
邑楽郡古氷村の字毎に地目・番地を記載した切絵図一点。（寄贈）
- ◎前橋市関根町・萩原久夫家文書
同家に伝来した江戸期から明治期の和算書・教科書類など一〇点。（寄託）
- ◎前橋市下増田町・阿久津實家文書
同家に伝来した近世から明治・大正期

の和本類・教科書類など一〇六点。（寄託）

◎渋川市赤城町・

旧赤城村津久田区有文書

池田元明家に保管されてきた勢多郡津

久田村の近世村方文書及び近代区有文書

など約二五〇〇点。（寄託）

◎前橋市亀泉町・

前橋市亀泉町自治会文書

勢多郡亀泉村（後に南勢多郡）の近世

村方文書及び明治期から昭和期に至る近

代文書など約三〇〇〇点。（寄託）

◎渋川市白井・高橋俊雄家文書

同家に伝来した近代の教科書・卒業証

書など一二〇点。（寄託）

◎前橋市本町・岩内欽司氏収集文書

屏風裏張り文書。近世から近代文書を

含む。（追加寄託）一点。（一括）

◎神奈川県横浜市・若林茂生家文書

前橋藩士であった同家に伝来した近世

から近代の文書。三七二点。（寄贈）

◎渋川市北橋町・今井登家文書

同家伝存の昭和八年中国戦線従軍日

誌・満州出征記念アルバムと和本類など

十六点。（寄贈）

◎渋川市渋川・神保忠史家文書

中之条町岩本に所在した神保家に伝来

した近世から近代にかけての材木関係な

どの文書、約一〇〇〇点。（寄贈）

◎前橋市元総社町・和田正雄家文書
同家に伝存した近世から近代の文書、一七点。（追加寄託）

◎沼田市・金子正宏氏収集文書

金子氏が収集した沼田市・川場村・昭和

和村の近世から近代の文書、約五〇〇点。

（寄贈）

◎前橋市東善町・萩原正一家文書

家譜・軸物など一一点（追加寄託）

古 文 書

新たに閲覧できる

（平成二十四年四月以降）

◎勢多郡赤城村三原田・永井明家文書

白井長尾氏の家臣と思われる永井氏の

文書群。近世文書が約六割、近現代文書

が約四割を占める。

五〇点（P〇〇〇七）

◎前橋市・松田実家文書

前橋藩領の村々を川通・前通・東領な

どの区分で、石高と村名を記した史料。

一点（P〇〇六〇六）

◎前橋市天川大島町・見目百合子家文書

前橋市名所絵葉書、前橋中学校落成記

念写真など。五点（P〇〇七〇一）

◎前橋市・佐藤統太郎家文書

全て写真資料。明治三四（一九〇一）

年〜大正四（一九一五）年当時の集合写真（卒業写真等）、河川・橋梁などの風

景写真が多い。

四一点 (P〇〇七〇三)

◎前橋市日輪寺町・天野一男家文書

ほとんどが江戸後期から明治初期にかけて刊行された漢籍類の文書群。

六三点 (P〇〇七〇八)

◎安中市安中・石井忠樹家文書

石井氏の母方である岡田氏の文書群。

内容は、安中藩板倉家関係文書、古城・古戦場図などの絵図類、剣士岡田定五郎関係文書など。

一七九点 (P〇一〇二)

◎吾妻郡東吾妻町・富澤久幸家文書

代々九兵衛を名のり、原町の名主など村役人を務めた富澤家の文書群。内容は、原町の地方文書、富澤家の諸経営(酒屋・質屋・旅館業など)並びに私的文書からなる。

三三七九点 (P〇九〇五)

◎吾妻郡嬭恋村・小林康章家文書

戦国大名武田氏の重臣内藤氏の関係文書群と小林家関係文書群(近世文書と昭和三〇年代の自家水力発電関係文書)からなる。

一〇三点 (P一〇〇七)

◎北群馬郡吉岡町・馬場晴信家文書

主に群馬郡北下村関係の近世・近代文書群で、証文・書状類が多い。馬場家は戦国大名武田氏の重臣馬場氏の末裔を称して、馬場氏系図も数点ある。

四七九点 (P一〇一四)

◎前橋市文京町・赤井朗家文書

前橋測候所技手赤井敬三氏に関する近現代文書。

五八一点 (P一〇九)

◎伊勢崎市北千木町・菊池秀明家文書

伊勢崎藩士であったとされる菊池家に伝わる文書。幕末から明治初年にかけての金銭出納簿類。

二九点 (P一一一〇)

◎群馬県・阿久津宗二氏収集文書

貞享三(一六八九)年の猿ヶ京村検地帳写と明治九年大友村の地引帳。

二点 (P〇九七〇八)

◎前橋市下細井町・南雲正和氏収集文書

「前橋市街細地図」と題した大正八(一九一九)年の前橋停車場(現前橋駅)以北を描いた地図。一点 (P〇一一一)

◎邑楽郡大泉町・横田明家文書

戦国大名武田氏の家臣横田氏の末裔とされる横田家に伝わる文書。高掛物・小物成など諸役の割付状や皆済目録、馬医関係文書など。

一〇点 (P〇九〇三)

◎安中市東上磯部・萩原泰雄家文書

系図など萩原家の来歴に関する史料が多い。近世文書は二点。近代文書は学校の修業証書、書簡など。

一八一点 (P〇一〇一〇)

◎前橋市勝沢町・宮内次郎氏収集文書

前橋市龍藏寺町の加々美家文書(金子借用証文、質地証文など)、利根郡川場村萩室の外山家文書(質地証文など)、前橋市勝沢町の宮内家文書(郵便局員としての辞令・褒賞状など)の三家の収集

文書。

二三七点 (P〇〇八〇一)

◎佐波郡赤堀町今井・赤堀恒雄家文書

近世・明治期の同家第三次閲覧開始文書群。名主と地頭所の用人間の書状や他村の江戸在勤名主からの赤堀家宛書状、諸々の覚類(請取・勘定書上など)からなる。

二一五八一点 (P八九〇二)

◎前橋市・八木健次家文書

前橋藩松平家家臣八木家に伝わる文書群。幕末期に勘定奉行を務めた俵司、戊辰戦争で活躍し明治期群馬県学務課職員・郡長などを歴任した始(はじ)めに関する文書が中心。

一七四四一点 (P〇九七〇二)

平成二十四年度文書館ミニ企画展I

近世から近代へ

移りゆく村の姿と人々の営み

旧境町福島英一家文書と
旧新治村布施区有文書

開催報告

国・地方公共団体、企業などが作成・取得した諸文書や記録を保存し、利用を図ることの大切さもPRしました。

福島英一家文書(P〇一一〇)は、総数二〇七三三の文書群で、近世境村名主文書が八割以上を占めます。村政や年貢・諸役関係史料が多く、近世境村や周辺地域の歴史、そこに暮らした人々の生活を知る上で貴重な史料です。同文書の主な展示物は、次の通りです。

「上州新田郡境村 未割付之事」

「借地証文之事(酒造稼につき)」

「村明細書上帳 上州新田郡境村」

「銅山御陣屋御役郷免除願」

「例幣使街道沿家並絵図」

「文久三年 宗門人別御改帳」

「慶應四年 御用留」

新治村布施区有文書(P八七〇四)は、総数一五二二の文書群で、近世布施村や布施宿の実態、近代以降の当地域の歴史の変遷などを知ることができます。同文書の主な展示物は、次の通りです。

「上野国吾妻郡布施町御検地水帳」

「鉄炮十二丁預り証文」

「儉約議定連印帳」

「明治六年 群馬県布達全書 一」

「役場附書類引継目録」

「布施尋常小学校新築事務日誌」

「東京市震災義捐控・震災義捐金第二回募集控綴」

のべ一〇二日間の展示期間中、五七四名の方に御来館いただきました。

平成二十四年度文書館ミニ企画展Ⅱ

「群馬の礎を築いた

初代県令 榎取素彦」

「没後一〇〇年の榎取素彦を

文書館資料に探す」

の開催

榎取素彦（一八二九～一九二二）は、

明治九（一八七六）年に現在の形の群馬県が成立（第二次群馬県）した際の初代

県令（県知事）です。その後十年余りの

在任期間中に、産業振興、文化財保護、

教育の発展に尽力し、県庁を前橋に確定

させました。昨年（平成二十四年）が没

後一〇〇年にあたることから、本県や出

身地そして終焉の地でもある山口県では、

榎取の顕彰事業が数多く行われました。

当館所蔵の国重要文化財「群馬県行政

文書」の中には、榎取県令期の公文書等

が数多く存在しています。今回のミニ企

画展では、それら多数の史料の中から、

主な施策に関するものをパネル複製して

展示しました。展示資料はスペースの関

係もあり一部分ですので、これをきつっ

けとして閲覧室で実物を手にとってご覧

いただき、県政における取り組みを跡づ

けるとともに、榎取素彦の人物像に思い

を馳せて頂ければと思います。

【展示内容】

一 榎取素彦について

・榎取素彦の伝記

二 榎取素彦と県政

① 産業振興

② 文化振興

③ 県庁の前橋移転

三 榎取素彦と教育

四 榎取素彦の県令退任

【開催期間】

平成二十五年二月九日～五月二日（予定）

.....

平成二十四年度 群馬県立文書館

「ぐんま史料講座」

「罹災から復興へ」

「文書館収蔵史料の紹介」

本講座は文書館が所蔵する様々な歴史

資料の中から、特徴的な史料や興味深い

史料を紹介するものです。今年度は群馬

の災害について「罹災から復興へ」とい

うテーマを設定し、一月三十日（水）に

開催しました。平日開催にもかかわらず

募集定員を上回る五十五名の申込みがあ

り、参加者は熱心に耳を傾けていました。

内容は「群馬県行政文書にみる水害の

記録」（公文書係・中村みき）と「古文

書にみる天明三年の浅間焼け」（吾妻町伊

能家文書を中心に）」（古文書係・阿久

津聡）で文書館収蔵資料の両輪である公文書（県行政文書）と古文書（地域史料）の中から災害に関するものを選んで紹介しました。



一つめの報告では、明治期群馬県行政文書（国重要文化財指定）を中心に明治四十三（一九一〇）年の水害関係史料から台風にもなう豪雨による大水害について分かりやすく説明しました。この時の被害は全県下に及び死者も三百人を超える甚大な被害でした。

二つめの報告では、「天明の浅間焼け」としてあまりにも有名な天明三

（一七八三）年浅間山の大爆発とそれにもなう降灰や泥流の被害について吾妻川流域の岩井村に所在した伊能家に膨大に残された古文書を中心に火山災害の凄まじさについて紹介しました。

近年、大きな災害に見舞われることの少ない群馬県ですが、歴史をさかのぼると水害や火山災害をはじめとした多くの自然災害の驚異にさらされてきました。残された史料からは災害に立ち向かい、助け合う人びとの姿が見えてきます。中には現代の私たちにとって防災や減災を考えていく上で多くのヒントがあります。今後もしこうした貴重な史料をしっかりと後世へ伝えていきたいと考えています。

猿ヶ京区文化祭（みなかみ町）

古文書から学ぶ地域の歴史

「猿ヶ京区文化祭で

「寄託文書を展示」

平成二十四年十一月十日（土）、十一日（日）の二日間にわたって開催された

「猿ヶ京区文化祭」（みなかみ町猿ヶ京

区）で当館に寄託されている古文書（新

治村猿ヶ京区有文書、昭和六十年寄託

受入、総点数二七一点）の展示が行われ

ました。文化祭での古文書展示は隔年

で行われており、今回は貴重な古文書の中

から貞享三年の「上野国吾妻郡猿ヶ京村



御検地水帳」や文政十三年の猿ヶ京村地図をはじめとした近世村方文書と「地券確定書」「久賀湯ノ原両村合併陳情書」など明治期の文書が展示されました。

猿ヶ京区では、林強一氏や田村和寿氏らが中心となり、「地域に伝わった古文書を若い人に伝えていこう」という強い思いで毎回、展示を行っています。地域への関心を高めるためにも「地域の宝」である古文書を活用した取り組みは大いに意義のあることではないでしょうか。これからもぜひ多方面で活用していただければと思います。

案内板



◎『群馬県立文書館収蔵文書目録』

三十一集の発行

本目録は、前橋市・八木健次家文書と吾妻郡長野原町の応桑区有文書を収録しています。八木家は、延宝七年（一六七九）に権左衛門が松平大和守家臣となり、幕末・維新期に当主が前橋藩士として活躍した家です。明治期の当主始は、勢多郡長や邑楽郡長を務めました。幕末・維新期の勘定奉行関係文書、群馬県職時の各種辞令、書簡、蔵書（漢籍）などを中心とする文書群です。

応桑区有文書は、江戸時代の狩宿村・小宿村の村方文書、明治期以降の狩宿村・小宿村戸長文書及び両村合併後の応桑村戸長役場文書、明治二十二年成立の長野原町第八区長・第九区長持ち文書綴などからなる文書群です。ぜひ御活用ください。

事業報告



【行政文書の受任・引継収集】（於県庁）

6・27～7・6（知事部局）

7・13（教育委員会）

【古文書の収集・整理】年間（随時）

【古文書入門講座】

6・2～7・7（5回連続）

【長期古文書講座】

7・28～11・17（14回連続）

【ぐんま史料講座】

1・30 開催

【インターネット古文書講座】

4月～3月（12回）ホームページ掲載

【夏休み！文書館子ども探検隊】

8・2 実施

【レファレンス相談】

毎月第2・第4水曜日（午後）

【文書調査員会議】

5・23 開催

【文書館運営協議会】

7・25 開催

【群馬県市町村公文書等

保存活用連絡協議会】

6・28 総会 2・28 研修会

【全国歴史資料保存利用機関

連絡協議会全国大会】

11・8～9 広島大会参加

【開館三十周年記念式典・

講演会・シンポジウム】

11・2 開催

【開館三十周年記念特別展】

10・27～1・30

「絵図でたどるふるさと群馬

―城・関所・村の風景―」開催

【ミニ企画展】

6・9～10・14

「近世から近代へ移りゆく村の姿と人々の営み」～旧境町福島英一家文書と旧新治村布施区有文書を通して～開催

2・9～5・2

「群馬の礎を築いた初代県令 楢取素彦」～没後一〇〇年の楢取素彦を文書館資料に探す～開催



発行 群馬県立文書館
<http://www.archives.pref.gunma.jp/>
 〒371-0801 前橋市文京町三二七-二六
 印刷 松本印刷工業株式会社
 字 岡庭 征人書